

未来を変える！

2023 3/11(土)/12(日)

すてっぴホール (定員 77 人)

「姉妹よ、まずかく疑うことを習え」

「わたしの描きたいこと」

「メラルはどこに？」

非正規差別撤廃
私たちはあきらめない！

「東京メトロ「非正規」物語 (劇場版)」

会場:とよなか男女共同参画推進センターすてっぴ

エトレ豊中 5F(阪急宝塚線豊中駅下車すぐ)



*保育あり: 先着 5 人、各回 550 円(税込)

対象 1 歳～小学 3 年生

要.申し込み(〆切 3/4.土)

--- 連絡 シニア女性映画祭

主催:「波をつくる女たち」シスターウェーブス

Blog: sisterwave.exblog.jp

HP: <http://sister-waves.fem.jp>

協力:フリークの女たち

協賛:とよなか男女共同参画推進センターすてっぴ

(指定管理者 一般財団法人とよなか男女共同参画推進財団)

チケット各プログラム

前売り 800 円 当日 1000 円(入替制)

1 日通し券 1300 円

2 日通し券 2300 円

高校生以下、80 歳以上、車椅子利用者

介助者、原発避難者は無料

前売り予約:sister-waves@qc.fem.jp

携帯: 090-2700-4557

2023 3/11(土) 10:00 開場

「わたしの描きたいこと」

監督 クオン・ヒョ

ドキュメンタリー/93分/2012/韓国(日本版 2018)

◆トークゲスト 中西美穂さん(文化研究者)

2007年、日本の絵本作家の提案で日・中・韓の絵本作家がそれぞれ平和の絵本を作り、3カ国で出版することになった。韓国のクオン・ユンドクさんは元従軍慰安婦の花ばあばシム・ダリョンさんの物語を書くことにした。「慰安婦」は日中韓すべてに関わる問題だからだ。しかし制作途中で日本の出版社から修正依頼が来た(原画は表現の不自由展 2022 京都・神戸で展示された)



【監督紹介】

「日中韓 平和絵本プロジェクト」に関わったことから、日本軍「慰安婦」問題に関心をもち「わたしの描きたいこと」(2012年)を制作。韓国の市民放送局RTV「メディアで開く世界」のプロデューサー、メディア教育などを中心に活動する。

3/11(土) 13:30 開場

東京メトロ「非正規」物語 (劇場版)

制作者 松原 明・佐々木有美

ドキュメンタリー/82分/2021/日本

◆特別ゲスト 女闘労倶楽部(めとろくらぶ)

後呂良子さん

加納一美さん

瀬沼京子さん



東京メトロ売店の非正規女性たちは正社員との格差差別に立ち上がり、組合を結成。直談判と座り込みで少しずつ改善を実現。支援の輪を広げ、2020年の最高裁・判決まで頑張り抜く。この映画は彼女たちの8年間の闘いの物語。いまや非正規労働者は2100万人を超え、7割は女性たち。彼女たちの闘いは、高齢女性の貧困問題そのものだ。

【制作者紹介】

1989年、自主ビデオ制作集団「ビデオプレス」設立。労働・反戦・医療・環境問題など制作。代表作「人間らしく生きようー国労冬物語」(2001)、「メトロレディーブルース三部作」(2013/14/18)など。

交流会「シニア女性映画祭 10 周年記念誌出版祝賀会」

2023 3/11 (土) 17:00~19:00

ホテルアイボリー3F (徒歩5分)

会費 4000 円(食事付) 要予約 20 人(締切 3/4).....090-2700-4557 (正木)

2023 3/12(日) 10:00 開場

「メラルはどこに？」

監督 メルク・オズマン

日本初上映!

ドキュメンタリー/37分/2012/トルコ/字幕日・英

◆トークゲスト 正井礼子さん(ウィメンズネット・こうべ代表)

2011年、トルコ政府は女性を暴力から守るEUのイスタンブール条約を批准した。その直後、一人の女性が殺害された。メラルは夫の暴力に耐えきれず22歳で娘をつれて離婚。自立のため資格をとり、未来への夢に向かっていった。だが元夫がメラルの美容院に現れた…。母の悲しみと怒り、女性への暴力反対を音楽で訴える女たちのドキュメンタリー。



【監督紹介】

Melk Özman

1974年生まれ。2001年、トルコのフィルモア女性映画祭の設立に参加。女性のためのビデオワークショップにも力をいれ、制作者を育成。「女たちの反逆-トルコの女性解放運動」など作品多数。

3/12(日) 13:30 開場

山川菊枝の思想と活動

「姉妹よ、まずかく疑うことを習え」

監督 山上千恵子

ドキュメンタリー/76分/2011/日本

◆トーク 山上千恵子監督

100年ほど前、山川菊枝は、女性が制度的にも抑圧され声をあげにくい時代に「なぜ女性は生きづらいのか？」と声をあげた。男女平等社会実現のための彼女の思想と活動の軌跡を、インタビューでたどり、その現代的意義を問い、今を生きる人たちに伝えたドキュメンタリー。山川菊枝はいまも呼びかける、「姉妹よ、まずかく疑うことを習え」と。



【監督紹介】

1980年からビデオ制作を始める。2001年、ソウル女性映画祭「Dear Tari」で観客賞受賞。「30年のシスターフッド」(2004)、「闘いつづける女たち」(2017)など。2004年、映像記録を残すため「女たちの歴史プロジェクト」を瀬山紀子と立ち上げる。